

令和4年度府中市環境審議会第2回地球温暖化対策部会 議事（要旨）

令和4年7月14日（木）
午後6時から午後8時35分まで
府中市役所北庁舎3階第2会議室

■出席委員（10名）

対面 澤佳成委員（部会長）、表 伸一郎委員、安部貞司委員、嶋原國夫委員
小西信生委員
リモート 榎本弘行委員（会長）、河村幸子委員、成瀬こずえ委員、平崎崇史委員
山村憲太郎委員

■欠席委員

なし

■事務局

新藤生活環境部長、田中環境政策課長、田口環境政策課副主幹、扇山環境政策課長補佐、
白木環境政策課自然保護係長、環境改善係谷口、環境改善係越智、自然保護係中澤

■傍聴者

なし

■議題

- 1 開会
- 2 報告
第1回地球温暖化対策部会のご意見一覧について
- 3 議題
第3次府中市環境基本計画（素案）について
- 4 その他
- 5 閉会

■配布資料

- 資料1 令和4年度第1回地球温暖化対策部会のご意見一覧について
- 資料2 ご議論いただきたい主なポイント
- 資料3 第3次府中市環境基本計画素案（基本方針1 抜粋版）

当日配付資料

- 資料3 第3次府中市環境基本計画素案（基本方針1 抜粋版）差し替え
- 資料4 令和4年度第2回地球温暖化部会事前送付資料へのご意見について

その他資料

- 別紙1 委員事前意見 2013年度から2018年度まで5年間の家庭部門での排出量削減の推移とその内容
- 別紙2 府中市のごみ・資源物の推移（2010～2021）
- 資料番号なし 委員からの質問とそれに対する回答

■会議録（要旨）

【事務局】

定刻になりましたので、ただいまから令和4年度府中市環境審議会第2回地球温暖化対策部会を開催させていただきます。

本日はお忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日の会議につきましても、会場とウェブ会議システムを併用しての開催とさせていただきます。ウェブ会議でご参加いただく方へ、改めてのお願いとはなりますが、注意事項をご説明します。

1点目に、音声の混線を避けるため、発言される時を除き、音声についてはミュート状態にしてください。

2点目に、ビデオについては通信環境の確保のためオフとしてください。

3点目に、発言をする際は、ミュートボタンをオフにし、氏名を名乗っていただき、部会長または事務局より指名がございましたら、その後ご発言ください。

また、ウェブからご参加されている委員の方に発言者が分かるように、マイクを渡す前に事務局から「〇〇委員です」等のご案内させていただきます。

委員の皆様におかれましては、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、会議に入ります前に、事前にお配りした資料の確認をさせていただきます。

（配布資料の説明）

また、本日はお配りしておりませんが、6月3日に実施した第1回地球温暖化対策部会の会議録を先日皆様に送付させていただきました。修正のご連絡をいただいた方の部分につきましては既に修正しておりますが、それ以外の部分で問題がなければ「府中市環境審議会規則」第5条第4項に基づき、情報公開室やホームページで公開したいと思います。いかがでしょうか。

（異議の声なし）

ありがとうございます。

なお、公開に際しましては、皆様のお名前は伏せさせていただきます。よろしくお願いいたします。

ここまでで何かご質問はございますか。

それでは、質問がないようですので、第1回地球温暖化対策部会の会議録については了承とし、今後ホームページ等で公開してまいります。

本日の会議につきましては、欠席者はございません。

なお、本日の会議は、全員がご出席ですので、有効に成立することをご報告いたします。

それでは、ここからの審議は部会長、よろしくお願いいたします。

【部会長】

皆様、よろしくお願いいたします。新型コロナウイルス感染症がかなりの勢いで広まっております。再拡大防止のため、発言は簡潔明瞭を心掛け、会議に要する時間の短縮にご協力くださいますようお願いいたします。

また、本日の審議会は2時間を目安といたしますが、会場は2時間を超えて確保していた

だいているとのことですので、時間をかけて十分な議論を行いたいと思います。ご予定がある方は途中で退出することができますので、おっしゃっていただきたいと思います。

【委員】

傍聴人はいないと思いますが、それは報告をしないのですか。

【部会長】

今からです。ちょうど今お話がありました、委員は7時ごろご退出すると伺っております。

続けます。会議も大詰めになっていますことから、委員の皆様幅広くご意見を頂戴したいと思いますので、改めて審議の進行にご協力をお願いいたします。

初めに、傍聴について委員の皆様にお諮りします。府中市情報公開条例に基づき、本会は原則公開となっております。傍聴人はいらっしゃいますか。

【事務局】

本日、傍聴人はいません。

【部会長】

承知いたしました。

それでは、次第に沿いまして進めたいと思います。

次第の「2 報告」ということで、まずは事務局より前回の部会で出たご意見に対する対応について説明していただきます。「第1回地球温暖化対策部会のご意見一覧について」事務局から報告をお願いいたします。

(資料1を説明)

事務局から説明をいただきました。この点について、何かご意見・ご質問がございましたらお願いいたします。だいたい反映していただいていると思います。よろしいでしょうか。

それでは、次に進ませていただきます

続いて、次第の「3 議題」に進みます。「第3次府中市環境基本計画（素案）について」議論を進めてまいります。今までと同様に、議論の主なポイントをある程度絞り、丁寧に議論を行っていかうと思います。

また、事前送付資料に対するご意見もご紹介いただければと思います。

まずは、主な議論のポイントについて、事務局から説明をお願いいたします。

(資料2を説明)

それでは、議論のポイントごとに進めてまいります。

まずは、(1)「基本方針1の施策案、指標案及び市民・事業者の取組案について」議論を行いたいと思います。事務局より説明をお願いいたします。

(資料3を説明)

事務局から説明をいただきました。冒頭に申し上げましたとおり、これまでの議論を踏まえ、皆様からご意見を頂戴したいと思っておりますので、今回は順番に当てさせていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。委員から、ご意見よろしくお願いたします。

【委員】

事前に送ったものは除いてということですか。

【部会長】

重要だと思われるところは、かいつまんでご発言ください。

【委員】

資料4の2と3と4についてだけ、とりあえず意見を述べたいと思っております。

まず、2は全体の章立ての話ですが、本来はどこでもそうあるべきだと思いますが、計画をつくったら、計画に基づいて実績をチェックして、実績について評価するのが当たり前です。ところが、この素案の文章だけを見ると、実績をチェックして評価することが極めて難しかったり、今までやってきたことを全く無視して書いてらっしゃるような感じがしなくもない。コンサルが最後の最後までずっと受託してやるなら別ですが、そんなことはないの、府中市の環境政策課の職員が、環境基本計画に基づいた実績がどうなっているか一つ一つきちんと検証ができるような体制で案を組み直すべきだと考えています。今回の素案では極めて難しいだろうなと私は思っています。

また、3については、(差し替え版)13ページと26ページのコラム欄に、カーボンオフセットとはこういうものですよという説明があります。あたかも、これが達成できたら府中市の数字が改善されるかのような表現になっていますが、実際に環境省や東京都の担当課に聞いた範囲内では、そんなことは全く見ていません。カーボンオフセットというのは、考え方としてはあるけれども、東京都に関して言うと、数値上は一切カウントしませんということです。そのことをもし何か書くのであれば、認められる等の表現ではなく、「こういうことでも改善ができる」という表現にしていくべきだろうと思っております。

4は「指標・目標値」の「電力排出係数の46%削減について」に関して、前回、意見を口頭で申し上げて、事務局から「委員に対する回答」ということで文書をいただきました。回答を見て実際に私は確認したのですが、経済産業省は電力排出係数を46%削減するということがあるのですが、再度確認した限りでは、電気事業連合会、それから実際には経済産業省の資源エネルギー庁もそういうような組み立てになっていませんし、環境省と協議もしておりません、というのが先月までの情報でした。環境省の方針に基づいてつくる以上、現実的な計画にはならないのだろうと思っております。東京電力は、具体的な電源構成と称するものを変えて、それぞれCO₂排出量が減るような構成にすることで排出係数を下げるというようなことをやろうとしています。

特に、電力排出係数を0.37まで下げるという計画においてすら、資源エネルギー庁では原発の構成を20~22%まで上げることを前提にしています。しかし、皆さんテレビ等マスコミでご承知のとおり、実際には裁判で国が勝ったり負けたりして、必ずしも目算どおりにはなっていません。もっと言うと、府中市は東京電力からの電力供給がほとんどですが、東京電力配下では原発は全く動いていませんから、これから2030年度までに原発を稼働させて、予定どおりどんどん進めるのは難しいのではないかと。現在、原発の稼働率は全国平均で6%ですが、九州電力や関西電力で一部動いている分をカウントしています。

5ですが、素案は、各家庭に、「CO₂排出量をこういうかたちで減らしてください」と声掛けをすれば、実際に減るといふ組み立てになっているのだと思いますが、意見別紙1で、数字が実際に出ている直近の5年間を見ると、府中市のCO₂排出量は14%減ったことになっています。ただし、世帯数は5%強増えているのに、排出係数は0.567から0.463に下がっているのです、1世帯当たりのCO₂排出量は18%強の削減ですから、世帯ごとに考えたときには、実際には温室効果ガス排出のための努力を全くしてないということではありませんが、実績としては横ばいになっています。ですから、何らかの行動変容を市民の皆さんにお願いしなければ、何年経っても変わらないのではないかとというのが私の考え方です。

参考資料を裏側に記載しました。今から10年少し前ですが、平成22年に府中市が、ごみ改革ということで、ダストボックスをやめて有料化したとき、ごみは約3割減りました。別紙資料2にその後どうだったかということグラフで数字を出しています。595グラムを目標にしているのですが、実際には総量は若干増えて、プラスチックや燃やさないごみは減っています。これは、ある意味、分別が十分されてないのかもしれない。市民が、これはやらなければいけない、と思うようなインパクトのある施策というか、意味づけを何かしない限り、電力に関しても、ただ、こうやれば減っていきます、という話は多分難しい。具体的な策は、今回の資料の中に出ていないと思います。様々なことが書いてありますが、今までも市民の皆さんに実施してくださいとお願いしていることを、もう一回数字を並べているだけであって、これで市民が動くとは、どうも私には思えません。もう少し考えるなり何なりして、環境基本計画に載せることはもちろん、市の広報等、さまざまな手段を講じない限りうまくいかないのではないかと。

家庭のほうは、ある程度私もコメントできますが、産業や業務の場合は、それぞれまた違うところもあるかもしれませんが、とにかく、今のままだと、ごみ減量のときと同じで、きつい目標でもなかったもので、目標は達成できるように思いましたが、結果としては、コロナで在宅時間が増えたのでごみの量も増えて、数字は思うところにいかなかった。

環境基本計画の中での温室効果ガスに関しても、同じようなことになるリスクが非常に高いのではないかと。もっと真剣になって、具体的な落とし込みをした数字で計画をつくっていかない限り、絵に描いた餅になると私は懸念しています。

【部会長】

ありがとうございます。このあとの進め方として、事務局からご回答をいただき、議員の皆さんに議論していただく。次に委員からご意見を承るといふ順番でいきたいと思っております。

【委員】

1人で30分経過しましたが、そのやり方で時間は大丈夫ですか。

【部会長】

時間は大丈夫ではないかと思っております。できる限り全員の意見を聞くというご要望があったので、端的にお願いします。

【委員】

あとで、まとめてでいいのではないですか。

【部会長】

まとめてで覚えられますか。今までのやり方どおり、今の出てきた論点で進めたほうがいいですか。

【委員】

私は、委員がおっしゃるように、皆さんの意見を聞いてから、それぞれやったほうが良いと思います。

というのは、今、委員がおっしゃった内容は、前半部分は私も同じように考えています。ただ、それが事務局の方が答えられる内容なのかどうか。原発の問題や原単位の問題は様々な要因が絡んでいるので、議論が終わってから話したほうが良いのではないかと。後半の部分は、私は違う考えを持っています。

【部会長】

では、皆さんから意見をひと通り伺ってからということにします。私が頑張っただけでメモします。

委員、お願いします。

【委員】

すみません、横から余計なことを言ったかもしれません。

送られてきた素案は、通して理解できるし、とてもよくまとめていただいたというのが、私の基本的な感想です。コンサルの方と市の方で努力していただいたのがよく見えます。意見というわけではありませんが、少し気になったところと感想を述べさせていただきたいと思います。

（資料3の）17ページの個別施策3、「ZEH（ゼッチ）とZEB（ゼブ）」がコラムに書かれています。インターネットに様々な絵が出ていますが、私が勉強している限りでは、国交省の絵が一番分かりやすいような気がします。右のほうに「 ≤ 0 」というのが入っているものを建設技研さんも皆さんも見ていると思います。また、屋根やビルの下に少し説明を加えてあるものがありますが、そのほうが分かりやすいのではないかと個人的には思いました。

「市施設の省エネルギー化」というタイトルですが、「創エネルギー」ということも、二つ目の「・」あたりに、文言として入れてはどうかと思います。

18ページ「再生可能エネルギー導入促進」はいいですが、市のエネルギー政策について、上段に書いたほうが良いのではないかなという気がしました。

「再エネ電力契約への切替促進」を、（30ページの）重点プロジェクトに書いてありますが、18ページには書いてありません。いいのかなと思いました。

19ページ「エネルギーの地産地消」は、重点プロジェクトにも出てきますが、「地産地消」は、言葉としては慣れ親しんでいる人はいるかもしれませんが、一般市民が分かりやすい説明を、コラムでもいいので、書いていただいたほうが良いかなと思いました。

20ページ「市施設への再生可能エネルギーの導入」ですが、重点プロジェクトに「再生可能エネルギー由来の電力との契約」というのがあります。これは重要なことで、進めようとしているのかどうか分かりませんが、広報には「検討をする」、コンサルと契約するというようなことも書いてありましたが、それを書かなくてもいいのでしょうか。

23ページ、基本施策4「環境に配慮まちづくりと行動」は、ぷつと切れているので、

「まちづくりと、エネルギー施策と、環境の一体化を進めていきます」というようなことを書いたほうがいいのではないかと思います。

24ページ、個別施策2「人と環境にやさしい交通手段の構築」の「新交通システム」が気になりました。「新交通システム」というのは、府中における新しい交通の考え方やシステムとして位置づけられている部分があるので、様々な可能性やあり方を探るといふか、調査・研究しますよということかなと思います。

25ページの「都市における緑地の確保」のところに「熱環境改善に寄与する緑地を確保します」とあります。それはそうですが、自然本来の力や機能を生かしていきたいということではないかと理解しました。

26ページは子どもへの話で、とても重要なことだとは思いますが、カーボンオフセットだけでなく、環境政策課は、府中環境まつりなど、様々なことを実施しています。これも今後力を入れていきたいということを書いてはどうかと思います。「楽しく学んでCO₂CO₂（コツコツ）減らそうCO₂（にさんかたんそ）」というのはとてもいいキャッチフレーズだと思います。環境政策課はもう少しPRしてはどうでしょうか。子どもだけではありません。この前、たまたま事務局とお会いしたミズベリング [ミズベリング in 府中2022] も、いいことはいいとして、もっとPRしたらいいと思います。

27ページ、基本施策5「気候変動への地域対応」は重要なことです。今、災害が起きています。水害対策だけでなく、災害そのものの話ではないかと思います。ほとんどの電柱に、避難経路が書いてあったり、ハケ下のほうは「〇メートルまで浸水します」というのが張ってあります。そのことはどこかに書いてあったと思いますが、実は分かりにくい。ほかの文書かもしれません。一番下に「BCP」と書いてあります。BCPは、水害だけでなく、今どこでも実施している話かなと思いますので、「災害時のために」というようにしたほうがいいのではないかと思います。

28ページの熱中症については、私はよく分かりません。

意見を送ればよかったのですが、時間がなくて、言葉になってなく申し訳ないです。基本的には、とても分かりやすくなったと思います。皆さんの努力に感謝いたします。

【部会長】

ありがとうございました。委員には伝わっていますか。

【委員】

聞こえてはいますが、今、どういう状態でお話が進んでいるのかがよく分からないので、もう少し聞かせてください。

【部会長】

資料2「議論いただきたい主なポイント」の(1)についての意見を今求めています。あのほうがいいですか。

【委員】

はい。

【部会長】

承知しました。

それでは、次に委員お願いいたします。

【委員】

まず、前回までに出た意見が反映されていて、全体的にいいと思いました。コラムが特によくできています。

先ほど出ました、エネルギーの地産地消もコラムにあったほうがいいのかと思います。再生可能エネルギーと関係していることですので、入れたらどうかと思います。

【部会長】

次に、委員お願いいたします。

【委員】

私も、今、委員がおっしゃったように、非常にコラムなどが駆使されていて、分かりやすいなと思っています。20ページ（差し替え版21ページ）の「ガスの脱炭素化（ガスのカーボンニュートラル化）」の部分を、ご提供したかったのですが、間に合わず提供ができず、すみませんでした。内容的には非常にいいと思っておりますが、もしかしたら、もう少し字を少なくして、絵やイメージ図を入れたほうがいいのかと思います。提供できるようでしたら、させていただければと思っておりますので、よろしく申し上げます。26ページ、委員がおっしゃっていたように、水害対策の推進の部分なので、避難場所の部分では、水害用の「浸水〇メートル」という電柱の写真と（避難所案内板の写真の）両方を表示してもいいのかなと思っています。

【部会長】

次に、委員お願いいたします。

【委員】

前回発言した内容が反映されていて、非常にありがたく思っています。何点か気になる点を申し上げます。

10ページ（差し替え版11ページ）の「府中市の温室効果ガス削減目標」で、私がお送りした「2050年CO₂実質ゼロ」まで行くグラフを入れていただいて、ありがとうございます。書き方について確認ですが、「2013年度比48%削減」とありますが、48%削減することを目標にするのか、2ページあとの629.3千トンという目標値を目指すのか。言っていることは同じかもしれませんが、CO₂の量を明記するほうがいいのかと少し思ったりします。パーセンテージで押すのか、どうなのか少し気になります。

また、（差し替え版11ページの）グラフの中に、2013年度は1,210.2千トンという数字がありますが、直近年では、1,030千トンにまで減っていると、手書き的にグラフを入れていただいています。そこも（直近年も）現状の数字を入れたほうがいいと思いました。

基本施策の中に、「市の取組」、「市民・市民団体の取組」、「事業者の取組」という欄がありますが、非常に奥ゆかしい表現だなと思っています。「市民・市民団体の取組」、「事業者の取組」は、「興味を持ちます」というレベルでとどまると、削減効果はほぼ難しいかなと思います。書き方は非常に難しいとは思いますが、「興味を持つ」レベルではなくて、「省エネルギーを理解して、省エネ設備をどんどん入れていきます」というところまで

書いていただいて求めないと、「知っていればいいのね」という感じで終わってしまうような気がします。ところどころに「導入を進めます」（という表現があつて）、表現が違う部分があるので、もう少し能動的な、取組を引き出すような表現に直していただくと、よりいいかなと思いました。

【部会長】

委員お願いいたします。

【委員】

私は、基本施策1の3や基本施策2の個別施策1は、重複しているようなことが多いように思います。個別施策3は、基本施策2の内容が少し幅が広がっているというか、同じようなことが書かれているように感じました。

基本施策3「新技術の普及促進」の個別施策1「水素エネルギーの理解促進」ということで、燃料電池自動車や燃料電池バスの普及を目指すと書いてありますが、22ページ（差し替え版23ページ）には、「EVの導入」と書いてあります。両方導入するのはいいと思いますが、その前に「燃料電池自動車を普及させる」と書いてあつて、（23ページ）ではEVということになっていて、話が変わってきているのではないかと思います。整合性をしっかりとしていただければよろしいのかなと思います。

また、委員が今おっしゃっていたように、「市民・市民団体の取組」と「事業者の取組」は、具体性があまりにもないのかなと思いました。もう少し具体的に増やしていければいいものになるのではないかと思います。

【部会長】

委員お願いいたします。

【委員】

事前送付資料への意見を書かせていただいたように、素案は非常に分かりやすくなっていると思いますし、コラムはかみ砕いた説明にもなっていると思います。

前から意見を言わせていただいた省エネ行動ですが、新しい省エネ機器に買い替えるのが一番省エネにはなりますが、今のままで、どういふ努力をすれば少しでも省エネになるしCO₂を削減できる、ということが15ページの表を見ると分かるようになっているので、非常にいいと思います。

具体的な内容で、事前に意見を書かせていただきましたが、18ページ「再生可能エネルギー導入支援」の「市の取組」の二つ目の「・」の、「住宅に設置される太陽光発電システムや蓄電池システムの費用の一部を補助し、導入を支援します」と、個別施策2の三つ目の「・」の内容が全く同じ文言になっています。意味合いとしては、18ページの文言は、再生可能エネルギーということなので、「太陽光発電システムを導入する費用の一部を補助する」ということと、22ページは、「蓄電池（システムの費用の一部）を補助する」という意味合いだと思います。18ページは再生可能エネルギー、22ページは新エネルギーという意味合いだとすると、それぞれの意味合いを強調した言い方にしたほうがいいのではないかなと思いました。ひょっとすると、予算枠が同じだから同じ文書にしたのかどうか。市の方にお聞きにしないと分からないですが、推測しています。意味合いとしては、分けておいたほうがいいのではないかと考えました。

【部会長】

最後に委員お願いいたします。

【委員】

2点、既に意見紹介のところでは書いてありましたが、今回は時間の関係で言わなかったら何も載ってないので言います。

26ページの「子どもたちへの学習機会の提供」の「市の取組」のところ、前回、私は、「府中市の環境についての教材の整備をすべきだ」ということを提言したのですが、ここには「教材の整備」の記載がないので、「府中市の環境についての教材を整備します」というかたちで載せてもらいたいと思います。今、学校教育の現場では子どもたちも先生も、環境省や文部科学省の、地球全体や日本全体のことが書かれている副読本を使っています。府中市の環境はどうかというのは、府中市がきちんと整備しておかない限り、雲散霧消してしまいます。古道や甲州街道の前の道がどうだったこうだった、ケヤキ並木の昔のたたずまい、多摩川の鳥や魚や変遷、最近で言えばごみ収集箱がなくなった、そういうようなところは府中市としてきちんと押さえて、次世代に伝えていかないとどこかで消えていってしまう。地球全体のことは分かるけれども府中市のことは分からない、という可能性が出てくるので、ぜひ、一行、史料等については府中市として残しておいて、次世代へ伝えていくということを入れておいていただきたいと思います。（きちんと整備しておかないと）学校の先生方が府中市のことを子どもたちに教えようとしても、どこに材料があるのか分かりません。それが1点。

もう1点は、28ページ、「熱中症対策の推進」の「市の取組」、前回も言いましたが、公園のベンチや遊歩道は、整備はされていますが、日蔭がないわけです。お年寄りが散歩に行ったりしたときに、日蔭があることによって熱中症が防げる。「整備するように努力します」というようなことを入れてもらえないでしょうか。議事録では、「関連課と調整をします」で終わっています。難しい話ではなくて、1カ所でも増やせばいいわけですから、文言だけでも載せてもらいたい。その2点です。

【部会長】

皆さん、ご意見ありがとうございました。ここからは、私なりにまとめて、進めさせていただきたいと思います。

最初に全体の話です。委員から、章立てについて、もう少し工夫をしたほうがいいのではないかというご指摘がございました。4ページですが、いかがでしょうか。

私から、「施策の展開」の1行目、「今後区が」となっているので、「今後市が」や「今後市民が」に直していただければと思いました。

私からのご提案ですが、5ページに、「府中市地域温暖化対策地域推進計画としての位置づけ」と「地球温暖化・気候変動に関する背景」があります。「現状の課題」は、多分、背景を踏まえて進めていくので、例えば4ページの一番最初に、それぞれの基本方針の背景をまず持ってきますよ、ということ載せてはどうかかなということが一つ。4ページにも番号を振って、分かりやすくする。

5ページは「1. 府中市地球温暖化対策地域推進計画としての位置づけ」「2. 地球温暖化・気候変動に関する背景」となっていますが、この番号と、もし「背景」を入れるなら「背景」を「1」にして、「現状と課題」を「2」にして、「施策の方向性（施策体系）」

を「3」にして、というふうに対応させたほうがいいのか、というのが私からの意見です。

まず皆さんから意見を出していただければと思いますが、いかがでしょうか。委員、お願いいたします。

【委員】

今の意見に賛成です。対応した番号を書いていただけるといいかなと思います。

私も事務局に連絡はしていないのですが、資料を見て幾つか申し上げてもよろしいでしょうか。

【部会長】

大変失礼しました。委員、お願いいたします。

【委員】

皆さんがおっしゃっているように、私も資料3の素案を見たときに、随分変わったなど、好印象を持ちました。努力がすごくよく分かりました。ただ、ページを見ていきますと、皆さんが「あれ？」と思われるのではないかなと思うところがあったので、幾つかお話ししたいと思います。

私の資料のページで言いますが、7ページ、8ページ（差し替え版8ページと10ページ）は、コラムも入って、配置もいいし、分かりやすいページになっているなと思いました。

10ページもすごくわかりやすいですね。

12ページ（差し替え版13ページ）の「参考指標・取組指標」は、「カーボンオフセット事業 CO₂吸収量」の現状値は「84.2」となっていて、目標値は「1000」となっています。目標値がものすごく高くなっていることについての説明が欲しいと思いました。

12ページ（差し替え版13ページ）のコラムは、図が入ってとてもいいですが、文字が見にくい。ブルーの背景に白い文字で、図が小さくて、文字も小さいところがあって、せっかくの図が生かせないので、もう少し図を大きくしたり、文字の色を黒にしたり、工夫が欲しいなと思いました。

14ページ（差し替え版15ページ）に、「参考」として「省エネルギー行動によるCO₂削減効果」が出ていますが、電気代がものすごく上がっているので、表の数字は変わっていくのだろうと思いました。「リビング」、「キッチン」、「水回りやお風呂・洗面所など」、「買い替えで省エネ」に分けて書かれていて、具体的で分かりやすいなと思いました。ただ、一つ突っ込むと、「キッチン」の冷蔵庫ですが、冷蔵庫はものを詰め込みすぎないほうがいいのかと思いますが、冷凍庫はびっしり詰めたほうが効率がよくて節電になるということもあります。

15ページ（差し替え版16ページ）の図は、ほかのページと同じように、もう少し分かりやすくしてほしい。特に16ページ（差し替え版17ページ）の図は、委員がおっしゃっていましたが、もう少し分かりやすくしていただきたいなと思いました。

「市民・市民団体の取組」は、「検討します」や「努めます」と表現されていますが、もう少し具体的に書かれているほうが良いなと思いました。

19ページ（差し替え版20ページ）も、「市が導入している再生可能エネルギーに関心

を持ちます」と書いてあるだけですが、関心を持ってどう行動するかというところまで、受け身ではなくて主体的になるような表現がいかないと思いました。

20ページ（差し替え版21ページ）の「ガスの脱炭素化」のコラムは、文字が多いので、図があったほうが良いなと思ったので、委員のご提案をぜひお願いしたいと思いました。

私が特に関係している、25ページ（差し替え版26ページ）の個別施策4の「子どもたちへの学習機会の提供」が一番興味があるところです。

「市の取組」の一番上の「・」ですが、「総合的な学習の時間等を」と書いてあるからいいのかなとは思いますが、総合的な学習の時間は、小学校3年生以上中学生までです。（小学校1年生、2年生の授業科目の）「生活科」も入れてほしいですし、高校生は、今、「総合的な探求の時間」といって、自分の生き方を考えることになってきていますので、ぜひ「生活科」と「総合的な探求の時間」という言葉も入れていただきたいなと思いました。

府中市がどうなのか、自分たちの周りの生活がどうなのかという意味で、やはり、副読本、教材の整備、府中市に合わせた教材づくりを進めるべきだと思います。せっかく「学習機会の提供」ということを個別施策に挙げていますので、私も意見に賛同して、教材の整備を、ぜひ市で取り組んでいただきたいと思います。

26ページ（差し替え版27ページ）の「気候変動への地域対応」のところは、（「水害対策の推進」ではなく）「災害対策の推進」というかたちがいいと思います。皆さんのご意見に賛成です。

「市民・市民団体の取組」のところですが、ハザードマップは、高速道路より南の地区は、ほぼすべてが危険区域になっていますので、「自身の居住地も水害ハザードマップを確認します」だけではなく、「……確認し、家族で話し合います」など、もう一步具体的な言葉がないといけないかなと思います。「確認します」だけでは少し弱いと思いました。

28ページ（差し替え版30ページ）の「重点プロジェクト」ですが、表の一番下の「人と自然が調和し豊かなめぐみを得られるまち」の空欄になっているところは、どんなふうに書かれるのでしょうか。

【部会長】

重点プロジェクトは2番目の柱になるので、そのときにまたお願いしますので。

【委員】

ごめんなさい。では、お願いします。

【部会長】

委員のご意見を伺うのを忘れていて、大変失礼いたしました。

先ほどの全体の構成の話に戻りたいと思いますが、委員からは、いいのではないかというご指摘でしたが、ほかの皆さんはいかがでしょうか。

委員、お願いいたします。

【委員】

全体で、3ページ（施策体系図）の構成に基づいて全部書こうという発想は、とりあえずはいいと思います。

私が一番困ると思ったのは、21ページに「新技術の普及促進」とありますが、新技術の

普及促進で、例えば運輸部門で一番期待したいのは、電気自動車の導入で排気ガスが減ってということだと思いますが、新技術の促進は個別施策1と個別施策2だけでは全然カバーできない。同様に、現実に政策に落ちていないものが、ほかにも少なからずあるように思います。3ページは、下から積み上げるようなかたちにして、これが全部やれたらうまくいくと思わせるようなものでなければいけません。例えば、「電気自動車はどこにも書いていないから関係ないんだ」という話になるのは違うだろうと思います。それ以外にもあるのかもしれないし。

11ページの図に「家庭部門のエネルギー消費量28%削減」と書いてありますが、排出係数以外に各家庭でのエネルギー消費量を28%削減する計画ということは、私の主張とコンサルさんの主張は必ずしも合っていません。世帯数は今後増えていくのに、3割以上、場合によっては4割ぐらい削れという話は、例えば、電気代やガス代を2倍、3倍に思い切り引き上げたり、本当にギリギリしながら生活しないと駄目なような生活に追い込まれない限り、まずできません。例えば、皆さんに思い起こしていただきたいのは、昭和48年頃、オイルショックのとき、通常は夕方になったらネオンをつけるのに全部消せとか、終電の時間を早くして、もっと早く帰れとか、様々なかたちでエネルギーを減らすための努力を、国を挙げてみんながやったのです。今回、そういうようなことを国は考えていません。実際には、この数日の話でも、電力が足りなくなりそうだから、今まで止めていた石油由来の発電所を動かしてなんとか賄いますよという、削減とは真逆の施策をやらざるを得ない状況です。これを何とかしてもらわなければならない。府中市だけでできるとはどうてい思えませんが、府中市からも声を挙げて実施していく中で、国が、東京都が、全体が、もっとこういことを実施してくれないと、数字は達成できるわけがないでしょう。できないことは、そのまま積み上げていだけだと思うので、「新技術の、新施策の決定に期待する」というようなかたちで、表現を変えて逃げるといったらおかしいかもしれませんが、そういうことしか手が無いのではないかな。

このままいくと、私がつくってお示した「府中市のごみ・資源物の推移」の数字と同じようなかたちになって、結果的には、皆さん頑張ったけれどもうまくいかなかったですね、というような話になってしまいます。例えばごみの中でも、みんながリモートになったり、通販で買い物したりするので、段ボールを出す量が倍近くになっています。市民一人一人の生活のパターンを変えるかたちを、何らかのかたちで、文章の中にたくさん入れていかないと、どうてい無理だろうと思っています。コンサルさんは、来年度になったら契約が終わるだろうからいいですが、我々はこれに基づいて実際にどうするかという話をしていかなければいけない。そのとき、結局何もない。予算もついてないし、空元気だけでやるのかという話にならないようにしなければいけないということで、ぜひお願いします。

私は、7時から始まっている市民協働のおまつりの委員会に出なければなりませんので中座をさせていただきます。あとで議事録その他を読ませていただきますので、よろしく願いいたします。

【委員】

委員がおっしゃることはもっともですが、今、つくろうとしているのは府中市の環境基本計画で、来年4月からスタートするものを2年間でまとめようとしているわけです。今おっしゃったりリモートワーク云々はコロナになって出てきた話です。また、ロシアのウクライナ侵攻で、特にガスが足りなくなってきた、そのために石油火力発電させる。これからも多分同様の事例はたくさん出てくると思います。それらを直近で見ると、「なんだ、この

計画は」という話になりかねないのです。

私は、市の計画をつくるというのは、上位に国の計画があって、東京都の計画があるから、それに準じてつくっていく。時代の変遷によって、様々な状況が変わってくると思うのです。市だけでなく、東京都も、国も、同じように考えると思います。カーボンニュートラルについての文章は、（2050年度にCO2排出量を）ゼロにしようということから逆算して、2030年度は（2013年度比48%）削減しなければいけない、という文章だと思っています。この地球温暖化対策部会での議論は、国の計画なり都の計画に準じてつくる。

様々な問題点はありますが、それはそれとして横目で見ながらやるべきではないかと私は思います。

【委員】

共倒れになるのもしょうがないとは思っています。今のままだと共倒れになりますよね。

【事務局】

委員のご指摘のとおり、やはり、国・都に合わせて2050年の目標を見据えた計画をつくらなければいけない中で、多くの委員からご意見をいただきましたが、市民や事業者の行動変容が起きるような取組という部分については、少し書き方を変えていく必要があるかなと思います。委員のような現実的な考えの方がいらっしゃいますので、そういった書き方はできるだけ変えるようなかたちで表現したいと思います。

【部会長】

エネルギーの地産地消というところが、この点ではものすごく関わってくるかなと思っています。ウクライナへのロシアの侵攻といったことがあったとしても、なるべく影響されないエネルギー施策をまちでつくるのだ、というような決意は述べてもいいかなと思うのです。エネルギーの地産地消はとても大事ですし。

以前、打ち合わせのときに皆さんにお伝えしたのですが、例えば、2週間前の「サンデーステーション」（テレビ朝日番組）で紹介されていた、豊橋市の生ごみ由来のバイオマス発電やバイオガス、大阪府大東市の、植木の剪定木と家庭から出る粗大ごみや乾いた木のごみを混ぜて、1万世帯分発電している。同様の資源が府中市にもあるということも盛り込んでほしい。大きな予算が必要なので今回やれるとは言えないかもしれませんが、そういったことも検討するのだということを書いていくと、次の10年につながるのではないかなと思うので、ほかのまちの取組も入れていいのではないかなという気がしました。ただ、調整して考えてくださっていても、現実的にはこの10年では実現は難しい。しかし、今の議論のように、意気込みを入れていただくのと入れていただかないのでは大きく違うかなという気がしました。

それでは、4ページと全体の流れを一致させるということと、「背景」を新たに入れるということについてはよろしいですか。

事務局のほうでもご検討いただくということではよろしいですか。

【事務局】

はい。

【部会長】

では、そちらについては、ご了承いただいたということにいたします。

次に、カーボンオフセットの点についてはいかがでしょうか。今、私も、こうしてはどうかという意見を述べさせていただきましたが。

【事務局】

ご意見、ありがとうございます。13ページの「参考指標・取組指標」の「カーボンオフセット事業 CO₂吸収量」の目標値についてですが、確かに現状は明確な基準が定まっておきませんが、市のほうで、これからカーボンオフセット事業を展開していくことをPRするというか、今後取組を実施してCO₂の削減を目指していきたいという意図があって入れさせていただいています。数字を見ると理解しがたい部分もございますので、逆に記載をしないほうがいいのかもかもしれないというところで、今、検討しております。

カーボンオフセット事業の実施につきましては、(26ページの)「子どもたちへの学習機会の提供」でも触れさせていただいております。先ほど委員もおっしゃったとおり、市のほかの取組と併せて、カーボンオフセット事業も力を入れて実施していることが示せればと考えております。ご意見がありましたら、よろしく願いいたします。

【部会長】

今、カーボンオフセットについて、事務局から、13ページの表の記載は削除して、子どもたちの取組のところは残したらどうかという提案がありました。

【委員】

カーボンオフセットについて分からないと思いますので、カーボンオフセットとはこういうものだというのを、どこかに説明を入れておいたほうが良いと思います。

【部会長】

今、委員から、カーボンオフセットの説明は残しておいてもいいのではないかとのご指摘がございました。ほかにございますか。

森林を世界的に増やしていかないといけないというのは、とても重要な課題だと思っておりますが、予算がないからなかなかできないので、市が取り組んでいるというのは、たとえ国がそれに着目していなかったとしても、入れてもいいのではないかと私は思いました。委員がいらっしゃるときに言えればよかったです。森林を増やさないとCO₂を削減できません。いかがですか。残してはどうかというご意見と、分かりやすくというのはあると思いません。

委員、お願いいたします。

【委員】

今の話で、カーボンオフセットとはどういうものかという説明は、この資料の中に載せておいてもいいのではないかと思います。

府中市の場合は、長野県佐久穂町での植林ということで、どこかの認証機関で認証を受けて算定するのだと思います。絵で描くと非常に分かりやすいですが、ボリュームが多いので、本当にオフセットで相殺できる量のレベルなのか。結局、木は生えていますが、間伐材を伐採したり何かして、効果的になるように手を加えてやるということなのでしょう。

15ページの2030年度の目標値は1,000t、2021年度の現状値は84.2t

というのは、いつから2021年度までなのかよく分からない。個人的には、こんなにできるのですかという疑問もあることはあります。

【部会長】

確かに数値の根拠は示したほうがいいのかもしいと思いました。
委員、先に伺ってもいいですか。

【委員】

ここは私も疑問に思ったので、先ほどお話ししました。市は、カーボンオフセットと、「府中市における2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けた協働に関する地域協定書」に取り組んでいますね。私の資料では6ページ（差し替え版7ページ）です。この協定書のよう、森林関係以外にも取り組んでいることがありますので、ぜひ素案の中で紹介してほしいと思いました。

【部会長】

森林の取組以外にも挙げていただけたらうれしいということでした。事務局から何かございますか。

【事務局】

ありがとうございます。地域協定の取組については、現在、協定を結んだ事業者さま方と検討しているところです。地域協定の取組の紹介とは別に、これまで市がどんな取組をしてきたかにつきましては、少し紹介できるようなところを検討させていただきたいと思えます。

【部会長】

文章に入れていただけるということで、ご検討いただければと思います。カーボンオフセットの説明については残したほうがいいのかということ、ご検討いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

46%削減の件は最後のほうにすると、様々なご意見をいただきましたが、委員からたくさんご意見をいただいています。

【委員】

皆さんの意見に対して、一項目ずつやると時間がないので、まとめて基本施策1から審議していったらどうでしょうか。

【部会長】

簡単な修正ではないところ、例えば、19ページの「エネルギーの地産地消の促進」のところにコラムを入れていただきたいということ。

また、27ページの電柱の写真は、南町等にある「ここまで水が来ます」という表示も併せて入れてほうがいいのかというのは新しいご提案が、委員からありました。地産地消は委員からだったと思えます。とりあえずこの2点についてご回答いただけますか。

【事務局】

1点目の、19ページの「エネルギーの地産地消の促進」については、ご意見をいただきましたとおり、個別の説明が必要になってくるかと思っておりますので、コラムを挿入するかたちで進めさせていただければと思います。

2点目の、27ページの「水害対策の推進」ですが、先ほど、災害そのもののことというご意見がありました。今ここで記載させていただいているのは、地球温暖化に伴う気候変動という部分ですが、災害全体にかかるものというところもありますので、表現なり言い方を検討させていただきたいと思っております。

【委員】

気候変動で集中豪雨が今あちこちで起きています。多分、ハケのところも同じだと思っておりますので、災害も含めて書いたほうがいいのではないかと思います。

【部会長】

今、委員から、がけ崩れもけっこう起きているので、災害も含めて入れてほしいというご意見があつて事務局にご了承いただきました。マイク越しでなかったもので、再度私が述べさせていただきました。

【事務局】

集中豪雨なども含めてということになるかと思っております。記載につきましては、内容を精査させていただいて、反映できるようにしたいと思います。

電柱の写真につきましては、避難場所。先ほど浸水想定区域というお話もございましたので、記載内容に沿って、写真等も入れるかたちで検討してまいりたいと思っております。

【部会長】

ありがとうございます。よろしく願いいたします。

26ページの「子どもたちへの学習機会の提供」のところ、小中高の科目の文言と、府中市独自の学習教材を投入していくということを入れてほしいということがございました。

28ページの「熱中症対策の推進」のところ、前回から委員がご指摘されているベンチなどの日除けを設置するということも入れてもらえないかというご意見がありました。2点について、事務局からご回答をお願いいたします。

【事務局】

1点目の「子どもたちへの学習機会の提供」のところは、子どもたちへの市独自の教材の提供につきましては、重要なものと思っておりますので、表現等も踏まえて工夫して記載させていただければと思います。

委員からございました科目につきましては、教育委員会の意見や、また調整も必要になってきますので、ご意見があつたことを共有させていただいて、計画に反映できるかどうかを含めて検討させていただければと思います。

28ページの「熱中症対策の推進」のところ、ベンチ、日蔭の対策等については、個別具体的なものというよりは、日蔭をつくる工夫というような内容で、全般的にかかるような表現を考えて、反映するようにしていきたいと思っております。

【部会長】

ありがとうございました。委員、お願いいたします。

【委員】

参考までに、今、府中かんきょう塾を実施していますが、受講生の一人が中学生です。彼のお父さんと話をしたら、武蔵野高校〔東京都立武蔵高校・附属中学校〕は中高一貫校になったのですが、彼は地球学というカリキュラムの中で環境の問題について勉強しているので、かんきょう塾を受けに来ましたということです。ですから、今までは総合学習や何かで行っていたのに、学校によっては、地球学ということで、地球全体のことを考えるようなカリキュラムを備えているところがあるようです。

【部会長】

ありがとうございます。参考にさせていただければと思います。

次に、11ページ、皆さんのお手元にあるのは10ページですが、削減の表について、二つ大きなことがあると思います。一つは委員から、具体的なトン数を入れたほうがいいのではないかというご指摘をいただきました。もう一つは、具体的にできるのかというご指摘で、先ほど紛糾した件ですが、皆さんいかがでしょうか。数値に関しては入れていただく方向で。

【事務局】

「何パーセント」というところと、あとに示されている具体的な数値も併せて載せるようにしたいと思います。

【部会長】

グラフ自体はよろしいですか。

【委員】

この数字がなくなると、あまり意味がなくなる。このページでいいと思います。

【部会長】

これに加えて、トン数を入れます。最初だけしか書いてないので、具体的に分かったほうがいいのではないかというご指摘でした。

委員、お願いいたします。

【委員】

11ページの「2030年カーボンハーフ」についてですが、カーボンハーフというのは東京都の目標ですね。下にある数字は独自に計算されたのですか。市内の数字ということですか。それとも、東京都の数字から持ってきたのですか。

【事務局】

市です。

【委員】

私は、こういう数字（市内の削減目標）が、国や東京都の目標に近いのは、国が出してい

る46%削減という数字に合わせているからだと推測しています。

【部会長】

委員、お願いいたします。

【委員】

先ほどの委員や今の委員のご意見ですが、これを達成できるには、上位目標というか国なり都が実施している計画ができれば市もできるという話になるわけで、国や都ができなければ、府中市ができなくても俺たちの責任ではないよとエクスキューズできるというのはあると思います。

そういうこととは別に、温暖化云々よりも、後世にいかにかこの環境を残していくかということで府中市として実施していかなければいけない部分については粛々と実施していく。このことについては、国や都の計画が実行できれば市としてもできますよというような、逃げが打てるかもしれません。

【部会長】

今のご指摘についていかがでしょうか。

【事務局】

2050年にゼロを目指すという目標意識を持っていただくことは、市をはじめ市民の皆さん、事業者の皆さんにも、きちんとアピールしなければいけなかなと思います。結果として、そういうようなことが起きることは十分想定されますが、ここでは、目標はきちんと定めたほうがいいかと思っております。

【部会長】

文言の修正、重複の見直し、コラムの分かりやすさをもっと追求してほしい、取組についての文言は、関心を持つだけでなくその先も、というところだと思いますが、ほかに重点的に議論すべきことはございましたか。

委員、お願いいたします。

【委員】

基本方針1の抜粋に、環境保全活動センター云々がたくさん出ていますが、ほかの章になりますか。

【事務局】

今、ご質問いただいた部分につきましては、第5章の「協働の取組」触れさせていただいております。

【部会長】

15ページ、「省エネルギー行動によるCO₂削減効果」の表については賛否両論あります。委員がご不在ですが、修正できるところは修正していただくということによろしいですか。

委員、お願いいたします。

【委員】

15ページは「省エネルギー行動によるCO₂削減効果」ということで、多分、賛否両論があって、「こんなのはできるわけがない」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、これを全部押しなべてやれということではなくて、自分はどうすれば省エネルギーができるのだろうというときに、この表を見て、自分の行動として、こういうことを実施してみようということの一端になればいいのではないかと思います。ですから、一つ一つ、絶対にできないというものは変えたり削除したりしてもいい。厳密さを要求するものではないと思います。冷房は熱中症になるまで使うなということもあり得ませんし、冬の暖房を20度にしたら寒くて駄目だということもあり得ると思います。こうすれば省エネになるということで、少しでもできることをやればいい、というようなことで捉えればいいのではないかと、私は思いました。

【事務局】

まさにおっしゃるとおりで、今、私もそれをお伝えしようと思っていました。あくまでも参考として見ていただいて、できるところからやりましょうというような内容の文言にさせていただきますと思います。ありがとうございました。

【部会長】

子どもと一緒に見ながら考えられるページだと私は思うので、私も賛成です。ありがとうございます。

資料4の項番4、「指標・目標値」、委員から、国の（目標値である）46%削減ではなく、もっと現実的な電気事業連合会などの数字に合わせたほうがいいのではないかとのご指摘をいただきました。それについていかがでしょうか。一応、提起されているので、皆さんでご議論いただければと思います。「委員確認事項」という別資料にも載っています。

11ページの表に関わってきます。違いますか。

【委員】

基本計画のどのページに関わってくるのですか。関わるとすれば最後のほうでしょう。

【部会長】

最後のほうも多分関わっていますし、指標でも。

【委員】

原単位の話は前のほうには何もありませんね。

【部会長】

そうですね、目標値の考え方かなと思います。

【委員】

今おっしゃったのは、国の「2050年でカーボンニュートラル」ということで、2030年は、バックキャストで「46%削減」と出てきているわけですね。電力原単位の話は、そのあと、それに合わせるようにして電源構成をどうするかという中で、原発の

21、22、再生可能エネルギーを幾らにするという話になる。本当に達成できるのかという問題はありますが、逆に言うと、46%に合わせていって、原単位はこういう数字になっているということなら分かります。違うじゃないか、というのだったら修正はするのでしょうか、46%なり48%は変わらないと思います。

【部会長】

国の指標に基づいて今後進めていくという方向でよろしいですか。

(異議の声なし)

ありがとうございます。委員には、議事録を読んでいただいて、討議になったことを告げられればと思います。

それでは、これ以外は細かい文言など修正の依頼だったと思うので、事務局のほうで引き続きご検討いただくということによろしいですか。

【事務局】

はい。

【部会長】

(1)についてほかに何かございますか。よろしいですか。ありがとうございます。

それでは、「基本方針1の施策案、指標案及び市民・事業者の取組案について」は、今話し合ったような内容でご検討いただければと思います。

続いてポイントの2点目、「重点プロジェクト案について」議論していきたいと思えます。事務局よりまず説明をお願いします。

(資料3を説明)

【部会長】

それでは、こちら委員から順番に、ご意見がございましたらお願いしたいのですが、時間が迫ってきているので、短めで皆さんよろしくお願いいたします。

【委員】

一つだけ。再生可能エネルギーは素晴らしいものだ、何も副作用がない、というようなイメージが今のところありますが、渡り鳥が死んだり、電波障害が起きたり、大規模にやると、それに対する副作用のようなものが出てくる可能性があるのではないかとこのことをどこかに一言入れておいてもらえればと思います。

【部会長】

委員、お願いいたします。

【委員】

私は、この重点プロジェクトは素晴らしいなと思います。重点的に取り組んでいこうということですね。

特に、「再生可能エネルギーの面的利用プロジェクト」についてです。「基地跡地留保地」というのは、生涯学習センターの隣をイメージしているのだらうと思いますが、私がニュースで知っている中では、パナソニックの藤沢工場や、トヨタの裾野工場も、一企業が重点的にやっています。基地跡地はどこのものになるか決まっているのですか。いずれにしても、市が積極的に絡んでいくことはいいことではないかなと思いますので、積極的に進めていただきたいと思います。

【部会長】

次に、委員、お願いいたします。

【委員】

重点ポイントではEVを促進しているような気がします。20ページ（差し替え版21ページ）に「公用車に燃料電池自動車（FCV）の導入を検討します」と書いてあるから、整合性がとれないのではないかなと感じました。

【部会長】

委員、お願いいたします。

【委員】

重点プロジェクトにつきましては、今のお話にもありましたとおり、面的な部分をどこまで具体的に書けるかというところかなと思います。ウーブン・シティ（静岡県裾野市に建設中の実験都市）や藤沢のSST（サステイナブル・スマートタウン：Fujisawa SST）みたいなものをイメージして、30年後というような将来的な絵で取り組むのは非常にいいと思います。もう少し市民が絡めるような重点施策も位置づけられたらよりいいのかなと思います。数字との兼ね合いもあって具体化はなかなか難しいかなという気は（します）。

【部会長】

委員、お願いいたします。

【委員】

重点プロジェクトにつきましては非常にいいと思います。今の基本計画自体は2030年、8年先の計画だと思いますが、重点プロジェクトは、長期的な先を見据えたプロジェクトになると思いますので、このようなプロジェクトを進めていくというのは、夢が広がると思いました。

今までの個別施策の中では、けっこう分かりやすく注釈を入れていらっしゃると思いますので、例えば、28ページ（差し替え版30ページ）に「第5章 重点プロジェクト」の「3. 重点プロジェクト」の⑦「PPAの利用」とありますが、PPAについては分からない方もいらっしゃると思いますので、注釈を入れてもいいのかなと感じました。

【部会長】

委員、お願いいたします。

【委員】

重点プロジェクトは、再生可能エネルギーに偏ったことしか書いてない印象があります。ほかは、STEP 2で面的利用に進む、STEP 1、STEP 2の考え方はすごくいいと思いました。

【部会長】

委員、お願いいたします。

【委員】

先ほど話をしようと思って切ってしまったのですが、（30ページ、「3. 重点プロジェクト」の表の分類）「脱炭素型のまち」にプロジェクトが二つあります。「人と自然が調和し豊かなめぐみを得られるまち」は、「目指して」とは書いてありますが、具体的なプロジェクトが欲しいなと思いました。

また、PPAの説明も必要であろうと思いました。

30ページ（差し替え版32ページ）のイメージ欄の図に「跡地に太陽光発電」と書いてありますが、ある意味では自然破壊につながっている地域もありますので、マイナス面についても考慮することが必要ではないかと思います。プロジェクトにするのですから、やはりきちんとした説明が必要ですし、いい方向に向かうような原案にしていかなければいけないと思っています。

【部会長】

委員、お願いいたします。

【委員】

PPAの説明は20ページのコラムに載っています。

重点プロジェクトについては、こういうように進んでいくととてもいいなと思います。様々な意見が出たので、盛り込むと、さらに次回はもう少しよくなるのではないかと思います。

32ページの重点プロジェクト2ですが、先ほど話題になっていて、少し気になったのは、「基地跡地」云々と書いてありますが、基地跡地は全く白紙だと思います。下のほうに（32ページ、イメージ図に）「跡地に太陽光発電」と書いてありますが、多分つながっていない話だと思います。ですから、記載については注意したほうがいいと思います。これから白紙に戻ってもう一回見直しをするという段階です。

下のほうに「跡地に太陽光発電」と書いてありますが、公害の問題もありますので、慎重にまとめたほうがいいのではないかと思います。

ついでに資料編のところですが、すごくよく書いていただいています。世界の共通言語になっているSDGsをよりどころとして実施していきます、ということであって、SDGsは一般用語になっていますが、なぜSDGsにこだわるのか。世界の共通言語になっているSDGsを、例えば「府中市の」というように、私のような市民にも分かるようにしていただいたほうがいいと思います。ここまで書いていただいたのであれば、34ページ「関連する主なSDGsのゴール」に記載されている七つについて、資料はあるわけですので、番号だけでなく説明も入れたらいいと思います。評価目標等ありますが、少なくとも七つのターゲットぐらいもう少し説明を加えて、こういうことが関連するというのが、ビジュアル

的に見て分かるようにしていただきたいなと感じました。

【部会長】

32ページの重点プロジェクト2の基地跡地留保地のところで、私が勝手に夢見たことですが、先ほどの大東市の話のように、植木の剪定木と粗大ごみの家具、家を崩した場合の廃材などを混ぜ合わせる工場がもしできたとしたら、府中市だけでなく近隣のまちからも受け入れることになり、出てきた排熱でできた温水も配水できることになると思いました。もしかしたら、多摩地域の一大プロジェクトになる。資源はありますし、むしろ今お金を払って捨てているごみを資源にできるし、太陽光発電などによる弊害もこの地域は軽減できます。

今出していただいた意見を見ていきたいのですが、事務局、私が進めてもいいですか。

【事務局】

先ほど、委員からご指摘いただいた部分ですが、30ページの「人と自然が調和し豊かなめぐみが得られるまち」の（「プロジェクト名」欄と「関連する個別事業」欄）は今何も入っていませんが、生物多様性部会に入れていただくことになっています。説明すればよかったのですが、今回は地球温暖化部会ですので記載はしていませんでした。

【部会長】

それでは、今出た意見をまとめていきたいと思います。まず、議論が簡単に済みそうなものから進めていきます。

オンラインの皆さんのお手元にある資料では28ページ、新しいものでは30ページ、「3. 重点プロジェクト」の「再生可能エネルギーの導入拡大プロジェクト（STEP 1）」⑦に記載のPPAの説明については、先ほど委員からもご指摘がありましたが、20ページにコラムとして記載があるので、「20ページ参照」等の注釈を入れてはどうかと思います。よろしいですか。

【事務局】

注釈を入れて分かるようにしたいと思います。

【部会長】

それでは、このページについては以上だと思いますので、重点プロジェクト1に移ります。古い資料では29ページ、差し替え版は31ページ、再生可能エネルギーに関する副作用もある、という注釈を入れておいたほうがいいのかというご意見が、委員から出ました。いかがでしょうか。まず事務局からご回答をお願いします。

【事務局】

今は取り組む内容の良い面しか記載がないかと思いますので、課題等も踏まえたかたちで、どう進めていくのかというところの表現は必要なのかなと、ご意見をいただいて思いました。うまく表現できるようなかたちで検討していきたいと思います。

【部会長】

その点について何かご意見がございますか。よろしいですか。委員もよろしいでしょうか。

【委員】

いいです。よろしく申し上げます。

【部会長】

それでは、重点プロジェクト1についても、今の点を踏まえていただいたうえで修正いただくということで先に進みます。

次に、重点プロジェクト2に移ります。旧資料は30ページ、差し替え版は32ページで幾つかご指摘がございました。

基地跡地留保地について様々な取組がある、参考にしたらどうか、というのが委員からのご指摘です。委員からのご指摘は、太陽光発電ということが出てくるとよくないのではないかというご意見。私からは、木質バイオマス発電の一大基地にしたらどうかという夢ですが、意見が出ました。この点について何か事務局からご回答いただけませんか。

【事務局】

内容について、ほかにもまだ取組はあると思いますので、再生可能エネルギー以外のものも含めて、表現をこれから工夫しようと思います。必ずしも太陽光発電だけにとどまらず、例えば先ほどおっしゃったバイオマスや水素等の様々な要素があると思いますので、含めたかたちで導入していきます、というような表現にしたいと思います。

【部会長】

この点について皆さんから何かご意見はございますか。委員、お願いいたします。

【委員】

今のバイオマスの話は非常にいい話ではないかと思います。途上国の場合、金のかからないガスということで、家畜の牛糞を集めてバイオマスとしてガスをとった。電力も太陽光を使えばただということでかなりやりましたが、結果的に維持管理にとってもお金がかかって、途上国ではセットはしたけれども駄目になった。今の水力発電などに比べて金もかかるし、大規模でなかなかやりきれないのだろうと思います。ただ、バイオマスについては、かなり可能性があるのではないかと思うので、実施してみたらおもしろいのではないかなと思います。

【部会長】

ほかにご意見はございますか。

木質バイオマスが、もし可能性があるとする、この図も変わってくるかなと思います。市民が参画できる施策もあったほうが良いという意見が委員からもございましたが、市民の協力がかなり必要になってくると思いますので、図の変更が必要かなと思います。この点も含めて見直していただければ大変ありがたいと思います。ほかにごありますか。

委員、お願いいたします。

【委員】

先ほど、委員が問題提起されていた点について、私も疑問があります。

重点プロジェクトの中に「EV」があります。（32ページは）「EVの積極的な導入に

より災害時における動く蓄電池として」という文面になっています。30ページの補助金等では、単に「EV」になっています。

その前の章のところで言いそびれてしまって申し訳ないのですが、EVは市としてはどういう位置づけで考えているのですか。EVといっても、結局、日本のように、再生可能エネルギーだけでなく、火力発電所が発電すれば必ずしも環境にやさしいとは言い切れないのですが、世界的な流れではEVが普及しています。その辺をお聞きしたほうがいいかなと思いました。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。確かにご指摘のとおり、電力を化石燃料に頼っている日本で、果たしてEVが本当に寄与するのかというのは、確かに日本自動車工業会の会長がおっしゃったとおり、課題としてはあるのかなと思います。しかし一方で、世界的な動きとして、確立された技術としてのEVといったものがありますので、導入を進めていく必要はあるのかなと思います。一方で、新技術も転換期になりますので、様々な技術が開発されるものと思われま。水素エンジンの自動車の可能性もありますので、選択肢は残したうえで、今現在確立されている技術として、EVの促進も検討が必要だろうと考えているところでございます。

【部会長】

委員、よろしいですか。

【委員】

EVそのものの普及のための補助金ということなのか、それとも、蓄電池としてのEVなのかというのは不透明だったので、今の時点では言い切れないなら言い切れないで結構だと思います。

【事務局】

再生可能エネルギーの導入に当たりまして、レジリエンス（強靱性）といったところについても導入の意義があるということがうたわれておりますので、EVの可能性として、蓄電池、災害時に貴重な電源になると市としても捉えています。そういった両側面を踏まえて、導入を図ればというところはございます。ですので、施策や重点プロジェクトの中で、そういったところを見られるような表現を検討したいと思います。

【部会長】

委員、お願いいたします。

【委員】

重点プロジェクト2に木質バイオマス発電が入っています。府中市ではそういうことはできないわけですから外で発電されたものですね。発電した地域で使われるというのが地産地消なので、重点プロジェクト2のイメージ図に「木質バイオマス発電」が入っているのは違和感があります。

【部会長】

私は賛成です。なぜかという、府中市には今、街路樹がございますよね。街路樹の剪定木や、木でできた家具や建て替える住宅から出る廃材といったものがあるって、実はまちの中にも木質バイオマスの資源はあるというので、先進的に取り組んでいるのが大東市だということをお話させていただきました。

私の夢として語りましたが、基地跡地留保地で木質バイオマスを使った発電所ができたら、多摩地域の一大拠点になるのではないかと考えたような考えもあり得るということでお話したので、木質バイオマス発電は消さなくてもいいのではないかとというのが私の意見です。

【委員】

分かりました。ただ、そのぐらいだと発電量はそんなに多くないですよ。ですから、主要な電力になるとは思えないですが、できないことはないというのは分かります。

【部会長】

大東市では、4万世帯の内1万世帯に供給できているので、決して小さくはないかなという気がします。近隣のまちからどの程度集まるかということにもなっていくかと思いますが。

【委員】

私は岩手に調査に行きましたが、かなりの木材を使っても電力はそんなにできないというイメージがあります。大量に材木を使って発電していったところに調査に行きましたが、発電量は決して多くなくて、採算をとるのもなかなか難しい現場を見てしまったので、そういうふうを考えました。ただ、部会長が言っているとおり、可能性がこれからあるのであれば、どんどん入れたほうがいいと思います。

【部会長】

ありがとうございます。多分、委員が行ったのは地方の農村部なのかなと予測されますが、まちなかとまた状況が違うのか。具体的な話になると申し訳ないですが、可能性を追求していただければと思います。

委員、お願いいたします。

【委員】

実は、先日、足立区の清掃工場を見てきたのですが、足立区の場合は本当にまちなかにあります。まちなかで廃材などもきちんと処理する。それだけ大きな場所でした。近隣からの廃材などを期待できるのではないかと思いますので、部会長の意見に賛成です。実際に、たくさんの廃材が出たりしています。また、近隣の多摩地区からも集めれば、かなり有効に使えて、温水なども使えるのではないかと期待しております。

【委員】

工夫をしてもらったらいい。

【部会長】

ありがとうございます。もしかしたら、市長の意見かもしれません。
委員、お願いいたします。

【委員】

私は、事務所の管理をしていたことがあります。実は、植栽を伐採したものの処理は100万単位でお金がかかります。そういう意味では、バイオマスの場合は、再生されるものもあるのだろうけれども、府中市全体として、ごみとして埋めなければいけない費用も浮いてくるという二重の作用があるのではないかと思います。

【部会長】

木質バイオマスについては、可能性があるのではないかとのご意見が複数だったので、ぜひご検討いただければと思います。事務局からお願いします。

【事務局】

様々なご意見をいただきまして、ありがとうございます。市として、重点プロジェクトとして載せさせていただいたのは、先ほど部会長からもありましたとおり、一つは基地跡地の可能性が大きいのかなと思っております。大きい電力、小さい電力にかかわらず可能性があるものについては、積極的に導入していきたいところと、府中市らしさというところも出したいという部分があります。府中市には豊かな自然があります。都心ではありながらも、豊かな自然を利用できるという面も、ビジョンとしては必要なのかなというところに入れていただいております。

調べたところ、2年前ぐらいのデータでは、府中市で年間1,500トンぐらいの剪定枝等が出るという結果もございます。府中市だけで実施していくのか、近隣市のご協力の中で実施していくのかというところは検討になると思いますが、可能性があるものであれば利用していきたいと考えております。

【事務局】

今回、資料の冒頭（差し替え版6ページ）にございますとおり、市内の6者間で地域協定書を締結させていただいております。農工大様も参画いただいております。農工大様は木質バイオマスの研究も進められているということですので、可能性を追求していきたい。

また、エネルギーの地産地消というところですが、府中市内にとどまらず、多摩地域といった広域的な地域での地産地消ということも考えられますので、部会長がおっしゃったとおり、実現の可能性は十分あると思っております。

【部会長】

委員、お願いします。

【委員】

地産地消の考え方ですが、外国の例などを見ますと、その自治体で賄えなければ、それより一回り大きな地域で供給してもらい、それでも足りなければその外側で賄うという考え方をとっています。ですから、今、事務局がおっしゃったように、市で賄いきれない分は多摩の地域でというようなかたちはすごくいいと思います。そういった考え方で入れていったらどうか。補充原則と言ったか、エネルギーの地産地消についてはそういうふうに使われている

るということを指摘しておきたいと思います。

【部会長】

この点については、引き続き可能性を追求していただくということで、よろしく願いいたします。

戻りますが、E Vのところ、委員もご指摘だったので、先ほど事務局の皆様から回答がございましたが、よろしいでしょうか。何かございましたら、よろしくお願いします。

次に、資料編33ページ、(差し替え前)資料は31ページ。委員からのご指摘で、なぜこれを指標とするのかを分かりやすく明記したほうがいいのではないかと指摘が一つ。ターゲットは七つしかない、分かりやすく絵なども組み込んだほうがいいのではないかとこの二つ目です。

委員からの指摘で、「貧困をなくそう」や「飢餓をゼロに」という言葉は削除しないほうがいいのではないかと、この三つが主にあつたと思います。こちらについてご回答いただいてもよろしいですか。

【事務局】

申し訳ありません、もう一度よろしいでしょうか。

【部会長】

1点目は、委員から、SDGsを根拠とする理由を市民に分かりやすく、まず文章で示したほうがいいのではないかと、ということです。

2点目は、ターゲットが七つしかない、文言を入れたほうがいいのではないかと、できれば、市民が分かりやすい絵なども入れたほうがいいのではないかと、ということです。

【委員】

(SDGsの)国連の絵があるのだから、あれをそのまま、ターゲットに七つ入れてしまったらどうですか、ということです。

【部会長】

そうですね。呼応できるかもしれません。

3点目は、委員からの、「貧困をなくそう」や「飢餓をゼロにする」という文言は省略しないほうがいいのではないかとのご意見です。その三つがあつたと思います。お願いいたします。

【事務局】

まず1点目のSDGsを積極的に入れていくことの意義については、最初に、どうしてこれを入れるのかという説明は入れさせていただきたいと思います。

2点目の、ゴールの部分。おっしゃるとおりターゲットの詳細な説明は分かりやすい表現にしていきたいと思つています。

3点目の「貧困をなくそう」や「飢餓をゼロに」という表現を直すというところは、全体的にかかってくる部分もあるのかなと思つております。貧困や飢餓は、区分というかたちで表現させていただいたところです。(33ページ、SDGsのゴールの表の)目標1の「貧困」には「あらゆる場所、あらゆる形態の貧困を終わらせる」と、具体的などころも書いて

ございますので、こちらについてはご理解をいただければなと思っております。

【部会長】

委員、いかがでしょうか。

【委員】

いいと思います。ゴールの文章は、国連の文章そのままではないのですか。私は分かりません。「ジェンダー」とか「飢餓」とか、入れたほうがいいのか何とかではなくて、そもそも目標1は「貧困」ですから国連の文章そのままでもいいのではないのですか。変えるとまた変です。同じようにターゲットも七つしかないのだったら、国連の内容をそのまま載せるでもいいのではないのですか。「SDGsは世界の共通言語になっているので、府中としてもこれをよりどころにして」という前文があると、さらにいいのではないかと思います。

【部会長】

そのようにご検討いただけるということですので、この点についてはよろしいでしょうか。

委員、お願いいたします。

【委員】

今チャットで送ったのですが、プロジェクト2の、先ほど私が言った欧米でとられている考え方ですが、地産地消の際の「補完性原則」というのがあります。ある地域で賄いきれなければ一つ外側の地域が賄う。それでも駄目ならもう一つ外側から賄うという考え方です。そういうふうにしていかないと、地域だけでは間に合わない。現実的にはこういった補完性原則の考え方をとっていくのがいいのかなと思っています。余計なことかもしれませんが。

【部会長】

いいえ、大変助かります。ありがとうございます。

それでは、重点プロジェクトについて、ほかに何かございますか。

【事務局】

回答漏れがあったと思います。先ほど、委員から、基地跡地留保地については白紙ではないかという指摘があったと思います。確かに、これから国からの返還等ある中で、新たに計画を立て直すというところはあるかと思っています。基地跡地の整備の考え方というところで、市として、環境に配慮した整備という認識は担当部署も持っておりますので、再生可能エネルギーの導入を進めていくというような方向性は、統一的な見解は持っているところで。

【部会長】

担当部署はどちらですか。

【事務局】

政策課と、新たに都市整備部道路課のほうで――。

【事務局】

周辺地区のリノベーションのあり方のようなものがまとめられていますので、その中で一応そういった考え方が示されています。

【部会長】

ありがとうございます。突然伺いました。

ほかに、重点プロジェクトについて何かご指摘はございますか。

今まで出たご意見をもとに事務局のほうでもんでいただければ幸いです。よろしく願いいたします。

委員、何かございますか。

【委員】

確認ですが、重点プロジェクトは、我々のところは再生可能エネルギーに絞られているのですか。

【部会長】

先ほどご指摘がありました。その点についてお願いいたします。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。表現の仕方が、STEP 1、STEP 2 共通して、「再生可能エネルギーの導入」に偏っている部分がありますので、表現を工夫したいと思います。

【委員】

了解しました。ありがとうございました。

【部会長】

ほかにございますか。

それでは、重点プロジェクトについては、今まで出たご意見をもとに、事務局のほうでもんでいただければと思います。

続いて、ポイントの3点目、「その他、基本方針1の内容について」、何かあれば議論したいと思います。よろしいですか。

委員の皆様から、ほかに、全体について何かご意見はございますか。

委員、お願いします。

【委員】

意見はないです。よくまとめていただいたので分かりやすくなりました。「省エネ」や「再生エネルギー」という言葉が出ていますが、創エネルギー、エネルギーをつくるというようところが少し薄いように思います。どこかの章で申し上げたかもしれませんが、市のエネルギー政策をきちっとまとめて、「創エネもこういうかたちで、できることは」、地産地消等に絡めて、もう少しどこかに創エネという観点のものがあつたほうがいいのではないかなと感じました。

それと、17ページの「市施設の省エネルギー化」のところで、ひっかかっている文章があります。「・」の二つ目ですが、「ライフサイクルコスト考慮しながら、施設のZEB化

を推進します」というのが、私の理解不足かもしれませんが、何か変ではないかと思っています。一般論としては、市の施設はこれからコンクリートはやめるのですか、鉄骨はどうするのですか、全部木造ですかという話になるわけです。この文章はいいのかどうか私は理解できません。

【部会長】

17ページというご指摘がありました。詳細ではなかった。この点について事務局から何かございますか。

【事務局】

財政面を考慮しなければいけないというところもござい。改築の時期には効率のよい施設づくりを検討しなければいけないというところで、こういう表現をさせていただきました。

【委員】

否定するものではありませんが、「ライフサイクルコストを考慮」と書くことによって、府中市の施設はコンクリートで作りません、という話にいかないようにしたほうがいい。

【事務局】

分かりやすい表現にするよう、見直しさせていただきます。

【部会長】

先ほど、委員から、省エネルギーと、エネルギーをつくるということに関わらせてという点もあったので、もし可能であればその点もご検討いただくということによろしいですか。

【事務局】

はい。

【部会長】

ほかに全体を通して何かございますか。

委員、お願いいたします。

【委員】

STEP2のほうですが、国が発送電の自由化を完全にしない限り、なかなかこういうふうには進まないと思います。ですから、これが実現できるかどうかは、国の政策等もかなり関係してくるのかなという印象を持っています。府中市一つでできるという話ではないので、場合によっては都や国に働き掛けるということもあるのかもしれないので、よろしくお願ひしたいと思います。

【部会長】

ご検討に入れていただくということによろしいですか。

【事務局】

はい。

【部会長】

ほかにごございますか。

それでは、特にご意見は以上でなさそうなので、次に進ませていただきます。本日の議題については以上となります。

次第の「4 その他」ですが、事務局から何かございますか。

【事務局】

次回の開催時期についてご説明させていただきます。

このあと、7月29日金曜日午後6時から環境審議会の本会を予定しております。それを経まして、8月29日月曜日午後6時から、地球温暖化対策部会を開催させていただければと考えております。

また、開始の時期が近づきまして場所と詳細が決まりましたら、ご案内させていただきたいと存じますので、ご出席のほど、よろしく願いいたします。

【部会長】

皆様から何か今の点についてご質問等ございますか。

特にないようでしたら、これにて本日の部会は終わりたいと思います。皆様、ご足労いただきましてありがとうございました。オンラインの皆様も長時間ありがとうございました。

終了